

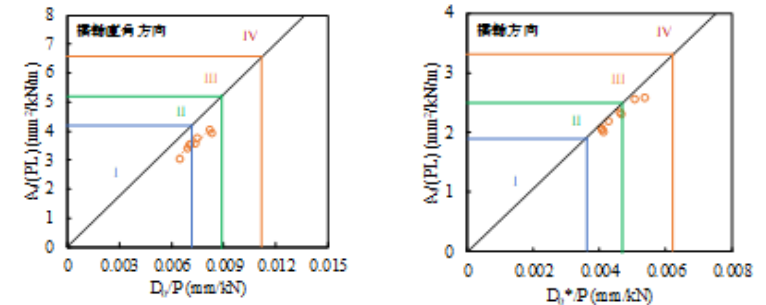
# 近畿大学 泉大津市との連携事例

## 自治体の課題(ニーズ)



自治体が管理する鋼道路橋床版の損傷状態について、これまで目視点検に基づく健全度判定を行っていた。  
しかし、目視点検の手法では点検者の技量に左右されるため定量的な判定が難しく、鋼道路橋床版の適切な維持管理が困難になるという課題が存在。

## 研究成果(シーズ)の還元



FWD装置(舗装構造評価装置)を用いて変形データを測定することにより、統一的な基準に基づく健全度判定が可能となる。  
定期的な測定による評価と、経時的な健全度の変化を把握し、鋼道路橋床版の適切な維持管理を推進することが期待される。

## この連携に携わった研究者



### (研究者の経歴)

2016年4月 近畿大学 理工学部 教授  
2010年4月 近畿大学 理工学部 准教授  
2002年4月 近畿大学 理工学部 講師  
1999年4月 近畿大学 理工学部 助手

1999年3月 大阪大学大学院 工学研究科博士後期課程 修了  
1996年3月 大阪大学大学院 工学研究科博士前期課程 修了  
1994年3月 近畿大学 理工学部 卒業

# 近畿大学 泉大津市との連携事例

## ■ 自治体(泉大津市)からの視点



近畿総通局

### 【デジタル技術を活用した地域課題解決に向けた取組について】

- ・ 取組の経緯・きっかけについて教えてください。

橋梁点検は、道路法施行規則に基づき、2メートル以上の道路橋などについて、自治体は5年に1回の頻度で点検することを義務付けられています。

点検に際しては近接目視によることとされており、近年はドローンを活用するなどデジタル技術の導入も進展していますが、本件は、近畿大学と事業者からの依頼に基づいて、近接目視によらずFWD装置(舗装構造評価装置)を用いて変形データを測定することにより、近接目視に置き換えて「数値」を基準として点検が実施できないか、泉大津市が実証フィールドを提供して実証実験を行っているものです。



泉大津市

- ・ 取組の期間・費用を教えてください。

泉大津市はあくまで実証フィールドを提供しているに過ぎず、自治体として特段の費用は発生していません。



泉大津市

# 近畿大学 泉大津市との連携事例



近畿総通局

## 【大学との連携について】

- ・ 大学と連携した経緯・きっかけについて教えてください。

大阪府では円滑な道路の維持管理を進めるため、国(大阪国道事務所)と大阪府、府内市町村、高速道路会社等が連携して、府内のすべての道路管理者で構成する「大阪府道路メンテナンス会議」を設立しています。

会議においては、大学と連携した取り組みを進めており、このうち泉大津市の道路に関するメンテナンスについては、近畿大学と連携するに至りました。



泉大津市



近畿総通局

## 【今後の展望について】

- ・ 本事例のほかに、今後予定しているデジタル技術を活用した地域課題解決に向けた取組や、大学と連携をしてみたい取組があれば教えてください。

橋梁だけでなく水道管など全国規模でインフラは老朽化しており、メンテナンス作業においてデジタル技術の活用は益々期待されるところです。

現時点で何か具体的な取組は予定はしていませんが、今後必要に応じて検討を進めていきたいと考えています。



泉大津市

### 連絡先

泉大津市 都市政策部 土木課

TEL:0725-33-1131

Mail: doboku@city.izumiotsu.osaka.jp

【参考情報】 泉大津市人口:7.3万人(令和5年11月現在)

関連URL: <https://www.city.izumiotsu.lg.jp/kakuka/koushitsu/senryaku/pppdesk/5888.html>